夕刊 磐城新聞
十月二十五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢（郵税拾錢）
廣告料金 普通欄 五號十二字詰一行一回金九拾錢 指定欄 一行金六拾錢
編輯印刷發行人 鈴木 哲 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄受付電略（ヘイライワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇五五六番

感情の行方

須田利雄

四

（ここまで考へて來たときふと岡山巌氏の歌集『思想と感情』を思ひ出した。何日だつたか吾妻乙矢さんの所で一寸手に取つたが、一、二頁めくつて見ただけなので、どんな内容なのか未だ分らない。一度讀んで見たいと思つてゐる）

○

他人の思想、他人の眼で物を見る人もあるやうだが凡ては自分の力で自分の中に發見し創造してゆくべきなのだと思ふ

愛とか神とかをじつと凝ひつめてゐるよ限りない思念が浮んで來るのに誰しも經驗する事だらう。自分は早く、書籍を捨てゝ、神或は愛（神と云へば愛のことであり、愛と言へば神のことであるのは常識でもある）を考へ續けて、しかも文化性を時代にこぼして行つた遠大な宗敎家の心を感ずるやうになりたいと思つてゐる

吾々は理論のために理論をするのでなくて或る友人も考へてゐるやうに、向上のためにである。しかし向上の爲に如何に苦心しても人間の最も內的な本質に到着することは出來まい。それはこうした神、或は人間の本質は知識の行手にあり得るものである（勿論、智識を神の方へ向ける特別の思想者はあらうし神のため或る程度の智識を必要とする者もあるだらう）唯自己の心情を、愛、或は神、永遠の生命の名に於て對象化し、それを見つめ、思索してゆくことによつてのみ、人間は自己の本質を意識出來るのだと思ふ

感情の行方は、自己の中に神、自然の美（藝術性）或は愛を悠久なる生命として發見する事によつてのみ發見し出せるのであつて、科學智識だけが近代的文化として化學を勿合してゐる自然の神秘性、神、生命等を思ふことを單なる夢想とする樣な時代の病的な智識を持つ偏した者には決して自分の感情の行方を知ることは出來ないし、人間としての自己を知ることは出來ないと思ふ（完）

三等車で見つけた娘

三森三郎

二

彼女たちの反對側にゐて
男を指しながら
可愛い子ね
學生かしら
色のズボンをはいてゐるわ
でわ不良

向ふに居る、中折帽の人
ネクタイをなほしながら睨
方を見てゐる、顔に手を顔
へもつて行く
やつぱり不良かしら
あんたはすぐ不良にしつ
ちまふのよ
母親が子供に乳をのませ
ながら國旗を持つて、私が
乘つてゐる列車へ向つて萬
歳を唱へてくれる、畠の中
から鍬を振り上げて萬歳を
してくれる百性もゐた

あんたはすぐ不良にしつ
ちまふのね
私はこの會話きりで○驛
へ下車してしまつた、あと
は彼女たちの、東京行が想
像である、たぶんこんな事
であらう
麗縮のやうに散つばつて
ゐる三等車から出て彼女た
ちは
一番にどこへ
西郷さんの銅像なんか古
いわ、

映畫に
決めませう
オーケー
ちよいと運轉手さん淺草
まで
あい奴變ね
亦不良
エンコのなんとか言ふ奴
よ
此方ばかり見てゐるわ
でもあんなウインクされ
で有頂天になつて喜ぶ女も
ゐると云ふんぢやない

皇軍

竹侶

○上したの級（しな）やあるべき軍人（いくさ）いづれおとらぬますらをにして
○かまきりも斧ふりあげむ力なし秋風寒き支那の國ばら
○荒みたままもらす太刀にはむかはんあたやあるべき日本ますらを
○やたがらすのりてやあらむ皇軍の天の鳥船雄々しまばゆし
○皇軍になにさやるへき天雲のこごしき山もはやちの空も

子守唄

永芳

坊や泣くない
弱虫め
お空の夕燒け
日暮れどき
遠いお家の
灯が光る
お山も
かすんで
雲のかげ
風さへ
ピユー〳〵
泣いて行く
コホロギ
ホロ〳〵泣いてゐる
坊や泣くない
僕だつて
泣きたくなるよ
泣くでない

天氣豫報（小名濱測候所發表）
今晩は北東の風曇時々雨
明日は北東の風曇後晴

10月26日

△伊藤博文暗殺さる（明治四二）△朝鮮會寧に飛行團を設置（昭和一〇）△支那公安局員太原の邦商を襲撃（同一一）

出福島過岩沼

孫雲 小野務平

福州爲客亦難夫
榮辱猶看行若珠
去坐颱轉過岩沼
海風消盡我忘吾

講談

悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

林杢兵衛作　金子士郎畫

(28) 犧牲の結婚（六）

二人は各々の掌に殘された、小判の重みを快よく感じながら、呆然として其の行衞を見送つた

『なんてえまアはつきりした娘だらう』と、先づ小六が感心する

『おッ、また妙に感心してゐねえで歸らうぜ。弓削から此處までの駕籠賃が二十兩。朝から合せて三十兩なら、あんまり惡い仕事とも云へねえや』

勘太が頻りに悦に入る

『あの調子ならまだ出るせ‥』

『そりやお前出もしやうが一時此の邊のいゝ顔で打ち切つて置かねえと、あとの大口が利かなくならア』

『またそんな大詰があるのかい！』

『あるさ、芝居なら今が丁度中幕だ、惡の利く狂言はこれからが千兩さ』

當るべからざる勘太の氣焔だ

『初、俺の書いた筋書とは大分違つて來たやうだな』

『當り前さ、非常婚禮の場が一幕ふへたから調子も狂はア』

『婚禮の場はよかつたよ。次は甚兵衛水車小屋の場かい？』

『大方そんな道行きになるだらう』

『はッ、はッ、有難え〳〵どつちにしても惡かアねえや』

思はぬ金の浮き儲けに。有頂天となつて笑ひ興ずる二人は、厄介さうに駕籠を昇いだ

と、川下の方から提灯が一つ、流星のやうに近づいて來る

人影は二人。藤左衛門と藤三郎の親子だ。

『おゝ駕籠屋！』

『へえ……』

勘太と小六は駕籠を片隅の方へ寄せて

『旦那、どちらまで參りやせう』

『駕籠ではない。一寸物を訊ねるが今しがた此の道を年頃の女が通らなかつたか？』。

『へえ、年頃の？』

『うむ、若い綺麗な娘だ。それが先を急ぐやうに取り亂して……』

勘太と小六は顔見合せて

（お出でなすつた金儲け…）

と、互に目顔で語り合つた。

東の空が明るくなつて俗色の月が出た。今日は廿日もうかれこれ四ッ頃だらう軟らかい光りが野菜畑の上を流れて、空まで茫と霞んでゐる。はてしもなく遠くまで畑が續いてゐるやうだ

その野中道。檪鼻に吊した提灯が無性に搖れて、北へ墓地に走る一挺の駕籠、あんまり昇ぎ馴れた人足でもなささうだ。その駕籠か鈴鹿川の小橋際でぴたりと止まつた

『有難う、本當にこれで助かりました。此處まで來れば、もう大丈夫ですから步いて行きます』

『まだ水車小屋までは大分ありますせお孃さん』

客は幾代。昇ぎ人足は勘太に小六だ。

『馴れねえもんですからねひどく搖ぶれて、却てお疲れで御座んせう』

『そのせいですかい？お步きは……』

『いゝわそちらこそ飛んだ骨を折らせて濟みません此處から先は步いた方が都合がよう御座いますからね』

『さうで御座んすか、ぢやア無理にお勸めも致しませんが……時にお孃さんはもうこれッ切りお邸へ歸らねわつもりで御座んせんか？』

『さあどうなりますか、まだそこまではかんがへてゐませんけれど、どちらにしてもこれはお前さん達二人の胸に納めて、どうぞ誰にも云はないやうにね』

『そりやアもうよく承知して居りやすが、なんだか矢ッ張り氣になるもんでしてねが御心配は要りません』

『何分御願ひ致します。それから少いかも知れませんが、これは今日のお骨折りです。またお世話になるかも知れません』

『へッへッへゝゝ左樣で御座んすかい、これはどうも濟みに、相濟みませんね』

『では急ぎますから……本當に御苦勞樣でした』

云ひ置いて幾代は、朧に霞む川筋を眞ッ直ぐに、折からの夜霧に掻き消されて行つた

平病院

平市警察署側（元磐城共濟病院跡）（電六四二番）

院主 院長 醫學博士 鈴木定藏

內科 小兒科 院長 醫學博士 鈴木定藏
產婦人科 一般外科 部長 醫學士 池谷宗三郎
皮膚泌尿器科 レントゲン科 部長 醫學博士 鈴木定藏
物理的療法科 技師 岡田重德
藥劑科 部長藥劑師 吉本孝平

◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕
入院料 一日 特等—貳圓 一等—壹圓五拾錢 二等—壹圓參拾錢

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）磐田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木政
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及び見習看護婦募集）
鈴木醫院
內郷村高坂磐炭病院前

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

互融會事業近況

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

事業報告 昭和十一年九月中
融通口數 一六八口
融通金額 三、五五七、五〇
滿期拂戻口數 六四口
滿期拂戻金額 三、〇一五、〇〇

概況 昭和十一年九月末現在
會員數 八、一三〇口
會員世帶數 五、三三三戸
積立金額 一〇九、三八、八〇七
融通金額 一四〇、三五五、〇七
回收金額 五七、五八四、七〇
滿期拂戻口數 三五〇口
滿期拂戻金額 一五、三四五、〇〇

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市揚槌小路一番地 電話五五五番
小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町
菊田方部 植田町
相双支部 原町東一番町

山野邊東次郎創製
漢方胃腸藥
效果頗る優秀
發賣元 山野邊藥局 平・五丁目

北川外科
平市新川町 電四六四

大和田醫院
電話一七〇番

銃後の活躍に
絶對無故障
フタバのリヤカーと自轉車
只今製造工場と協力して銃後特別奉仕大特賣會を開催中です。
フタバ商會
平市。新川町。郵便局前

高 出征服特賣
高嶋屋の洋服
新柄背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高嶋屋
平市二丁目
電話三八六番

ミシン洋裁生徒募集
◎入學隨時◎ミシン無料貸與◎
◎材料不要◎月謝破格低廉◎
◎本科◎高等科◎刺繡科◎
平驛前（市役所通り）
シンガー洋裁女學院
◎入學案內規則書無代進呈◎
◎寄宿、自炊、見習仕込ミモアリ◎

皇軍を慰問しませう
慰問袋に……
郷土色滿點の
『潮の華』
慰問品に限り勉强致します。
電話六六八
平五
泉屋菓子舖

平みやげ
味覺の秋こなりました
毎度有難う御座います。
滋養豐富な
ニコ〳〵のもち飴を
おすゝめ致します。
御進物用箱入 ¥20 30 50 70 1.00
御下命次第迅速に配達致します。
平市新川町
ニコ〳〵飴本舖
電話四四九番

月曜論壇

一部論者に誨ふ

『舷に刻して劍を索むる』と云ふ語がある。時潮の推移を弁へざる迂愚を嗤ふ諷語としては適切之に過ぐるものが無い。平小鐵道の片岡廻りを主張した當時は其れを以て最善なりとする理由があつたかも知れぬが、不斷に流動する時代の姿は、事物に對するポイントに一定不變の明日を約束出來ないことは舟の推移を關心の外に置いて遺した劍を捜す事の不可能なると一般である。而も宏遠の居氣樓的理想を闘して不渡手形の濫發以外何物も無い地廻り政治家？が投票獲得を目的の全部とする一種のアトラクションとしたか、或は關係町村理事者の物見遊山兼旅費稼ぎであつたかの所謂運動を時代抜きに膠漆維持せねばならぬと云ふ理窟は蓋し何人が如何にしても發見出來ない事である。由來獨立自主の識見に基いて行動する當該官廳に對して極めて牽强附會的な國運の伸展と民福の增進とを提げて偏狹な我意を遂行せんとするが如きは少くとも國家の行政機構を冒瀆するもので、凡ゆる事業の計劃は單に希望の諒解を求むる程度に止め爾餘の採否は恬淡快朗なる白紙主義に終始すべきで、之の見地から從來平小鐵道に對する地方有志の態度が徒に事を紛糾錯綜に導き、當局をして十字街頭の去就に昏迷せしむる底の對蹠的陳情運動に終始したかに就て地方の福利上其間眞に萬斛の恨み無きを得無いものがある。即ち今や遲れ馳せ乍ら經由路線に關して全然白紙主義を持するに至つた事は其れこそ關係地方民本然の姿で之を以て平市會の操守を云爲するが如き小紙片や零碎な阿堵物に身神喪失の阿片吸引者となつて凡そセオリーを欠いた愚劣醜濫な遠吠的言辭を弄する殺而の徒輩あるは、時節柄寔に歎かはしい事である、少くとも大乘に生くる大平市民は些々たる小感情に囚はれた線路偏倚主義から卽刻蟬脫するの要があらう

上海方面の大激戰で
縣人將校(一名)兵(三名)戰死
暴支膺懲の尊い犠牲
けふ原隊から入電

上海戰線は愈よ猛攻擊に移り敵軍第一線總崩れの快報が傳へられてゐるが、これに先だつて去る二十一日同地に於ける激戰で地方から左記四名の尊い犠牲者を出した旨原隊に入電あつた

△錦村中田字安良町歩兵少尉松崎精一(二八) △神谷村塩字風内歩兵上等兵佐藤勝久(二八) △大浦村細谷字御殿三三歩兵一等兵芳賀儀平(三〇) △玉川村金成歩兵一等兵柳井英一郎(三六)

佐藤上等兵

佐藤勝久上等兵は神谷村鹽字風内元村長佐藤久三郎氏の長男 實家は母親キミさん(四九)妻キヨさん(二五)長女全子さん(四)長男精孝君(二)と海軍一等航空兵で昨年除隊した弟正次君(三五)妹久子さん(一九)秀子さん(一六)の七人暮し 父親久三郎氏は日露戰役の勇士で勳七等を持ち現在市內新川端に隱居を構へてゐる、實家は同地の舊家、有數の資產家である、妻キヨさんは

きのふ(二十四日)戰地からの便りによりますと向ふはとても水が惡く、一度清い水を呑んで見たいと云つてゐましたが……と虫の知らせを語つてゐた

芳賀一等兵

芳賀一等兵は大浦村漁業組合長芳賀保三郎氏(七五)の八男で出征前は東京王子區にあつて玩具製造の職工をして居た、留守宅は妻ハルさん(三三)が獨りで守つてゐる 大浦村の實家は父親と母カツさん(六八)並に兄弟六人が居る

兄の博男氏は儀平氏と共に出征、甥の芳賀次郎兵衛氏は目下飯島部隊に加はつて奮闘中であり、一門から軍人三名を出した『譽れの家』である、數日前『元氣でやつてゐるから安心してくれ』との簡單な便りがあつたと

柳井一等兵

柳井英一郎一等兵の實家は父平藏氏(六四)母イシさん(六二)妻ミシ(三二)さんとの間に一男三女がある、四日前『元氣でやつてゐる』との簡單な便りがあつた

鹽田伍長(小名)戰死す

小名濱町竹町歩兵上等兵重田良吉(二七)君は十四日北支戰線で戰死、伍長に特進した旨入電あつた、實家は父富五郎氏(五六)母ハナ(四九)さんと妻ハルさん(三五)との間に今年二月生れた長女タケちやんがある、弟妹八人

產婆合格者

本縣第二回本縣產婆試驗合格者昨二十四日發表されたが受驗者數二百五十名中合格同數五十四名で、うち市內南町平產婆看護婦學校からの受驗者九名中左記七名が合格した

山田ユキイ　高島ハナヨ　佐藤チカノ　新妻トクヨ　小澤トミ　大峯スイ　村田コウ

軍國の秋に薫する
恒例 入山の菊花展
今年から社外も獨立開催

入山炭礦園藝部の行事として毎晩秋全山に芳芬の香を薫する菊花品評會は、今年も來月一日から一週間同社山神社々務所に於て開催するが、今回は時局の關係上熱心な栽培者多數が應召した等の關係から出陳百二十點外懸崖二十點位に半減し尚は從來中央から專門大家を招聘した審査の方法も地元の經驗者によつて行ふ等諸事節約の方針をとると、尙は毎年之に合同した社外同好者は今秋から分離獨立し松柏館傍に之亦來月一日から五日間品評會を開催、この方は出陳百點の見込みであると

陣中を聽く
—5—

寸分のスキを與へず
僅か二名で突入占據
市內仲田町出身 齊藤哲氏通信

——二三日以來○界の地區を傍らに控へ乍ら國際公約を侵さぬ樣難戰して居ります。敵は二階三階からに小さな銃眼口を造り之によつて應戰して居る爲に實に危險極まり我々は○砲其他を以て先づ家を破壊し然る後敵兵を遣つつけて進出する狀態であります、併し乍ら彼らもさるものにて我が前進する樣な所には道路と云はず、屋內と云はず至る所地雷を敷設して居る爲一々之を捜しては誘爆しつつ前進する爲陸式に比し實に花々しき戰闘など見受けられません。唯々海軍式の無理押し一點張りにて昨日など三段式五〇陣地を占するに〇〇彈〇〇銃を以て猛擊を加へ敵兵動搖するを見るや僅々二名にて突入し敵手榴彈の猛擊に會ひつつも遂に之を獲得するなど壯絶極まり無きものでありました。斯くして各戰線共ジワリ〳〵と敵を壓迫して居りますから旬日を出ですして〇〇擊に移るものと思はれます。目下の處では敵も相當頑强に抵抗して居りますが之は後方に督戰隊が銃を擬して居る爲にて之亦我が飛行隊の爲め後方を叩かれて居りますから永い命はありません

敵飛行機は開戰初頭は中々花々しい藝をやり居つたそうですが今は殘機少くなり僅々夜に入つてから二千米もあるかと思はれる高度をとつてやつて來ることがあります。爆彈など勿論命中するでも無く昨夜もやつて來ましたが西部方面にて自分の陣地へ投彈して歸つたとか西部の連中大笑ひして居りました。適々大膽な奴があつて高度を下げやうものなら忽ち身ぐるみ我が陣地へ提供する次第です、それに引き換え我が飛行機は何れも〇〇〇米以下の高度にて敵彈雨飛の中を悠々と飛翔し小面憎き迄落ち着き拂つて一彈たりともおろそかにせず必ず敵陣見つけては打ち付け行くには我乍ら驚くばかりであります。實に恐るべきは制空權の有無であります、何れ〇〇擊には〇隊旗を先頭に進擊致すことなれば誓つて奮闘致す覺悟で居ります

（十月四日）

賣上げ約五千圓
磐女バザー賑ふ

昨二十四日の日曜日は恰も朝來の好晴に恵まれ、二日目の藤田校、初日の縣立高女兩バザーは共に大賑ひで殊に磐女は音樂會を併せ催した關係で市內外淑女の參觀夥しく午前中に二千八百圓を賣り上げ、生徒の斡旋に係る食堂などは非常な賑ひで今二日目が終了する迄には前年通り賣り上げ總額約五千圓に上るものと觀られてゐる

至急募集

工場員 給仕 各一名

小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ

磐城新聞社

。。。。。佐藤氏兼任 永戸村上永井村社永井神社々掌佐藤壽麿氏は同村下永井小澤神社小社御塚神社々掌を兼任することとなつた

內郷武道大會成績

內郷村武德會主催の銃後武道大會を二十四日同村綴武德殿で行つたが成績左の如し

△柔道(高點試合) 1 荒川利夫 2 關源藏 3 佐藤堅吉 4 高原庄郷 5 坂本勝治 (平分會賞)關源藏

△劍道(高點試合) 1 平商岩崎久治郎 2 同富田郁郎 3 內郷根本充 4 同神谷武義 5 平商江尻庄三 (平分會賞)內郷根本充

△銃劍術 (平分會賞) 佐藤兒二

磐訓松本君入賞
福島の辯論大會で獅子吼

無双の雄辯家

福島高商辯論部主催御大典記念第十回全日本中等學校辯論大會は二十四日午前九時から同校講堂において開催、參加二十五名の若き學徒は熱と意氣の獅子吼に滿場の聽衆を感動せしめたが審査の結果、新潟商業小泉梯二郎君が優勝した、視聽の完全な多數青年學徒に伍して雄々しくも出場した磐城平市磐城訓盲院の盲生松本七之助君が入賞したのが特に感激を與へた

一等 發揮せよ大和魂 新潟商業 小泉梯二郎

二等 黄金の釘 安積中學 加藤光威

三等 日本精神論 米澤商業 鈴木清吉

四等 赤ゲットの精神に歸れ 山形商業 安喰孝吉

五等 明かるみに出る迄 磐城訓盲院 松本七之助

。。。。。柴田警部補出席 植田署司法主任警部補柴田忠雄氏は二十五日から來月二日まで福島檢事局に開かれる本縣第六回司法警察官實務修習に出席

青年指導員講習會
教練の向上を目指し
神谷、植田小學校で

青年學校指導員の教練指導能力向上を圖る『教練指導員教練講習會』は福島聯隊區司令官並に本縣主催の下に郡下を二分し來る二十八日神谷小學校、翌二十九日植田小學校で開かれるが指導官は歩兵中佐大井川八郎氏で受講區域左の如し

(神谷小學校) 上、下小川 大野 四倉 大浦 神谷 平 草野 赤井 夏井 澤渡 三阪 永戸 箕輪 好間 內郷 飯野 湯本 鹿島 高久 豐間 江名 玉川 內郷礦業

(植田同) 磐崎 上入遠野 田人組合 山田渡邊 川部 錦 植田 菊多 勿來 小名濱 鮫川中堅

。。。。。平澤果樹組合總會 二十五日午後一時から作業所內に開き併せて品評會開催

。。。。。平市學務委員會 二十八日午後二時から開き退職敎員慰勞金、第四小學校增築(三敎室並に体操場兼用講堂)に關し協議

矢野赤井村議失格す
當選前の村稅滯納

赤井村では二十三日村會を開き村會議員矢野金市氏の失格を議決した

矢野氏は一昨十年度特別稅戸數割二十一圓二十錢並に亡父房吉氏名儀の同年後期分地租附加稅、家屋稅附加稅計五圓八十一錢を延滯財產差押への處分を受けてゐたもので村では右に伴つて次點者古市喜三郎氏の繰上を近く村會で決定する筈

。。。。。藝者さんの實家へ。。。。。

平藝妓屋組合では現在九十名の大小藝妓中左記十名の兄弟が夫々皇軍の第一線に活躍して居るのでその家族に對し懇篤な慰問狀に添へ金品を贈る事を決議し今明中發送すると

三好家とき子 山形家夢二 橘おこま 品澤與太郎 三島家千成 開花駒勇 同花助 吉野家金太郎 同千松 榮家福榮

組合から應召關係慰問

出征子弟授業料全免

磐城中學では先月分から出征兵の子弟十六名に對して授業料全免を實施してゐる

。。。。。小學郷土展 市內第四小學校では近く郷土展覽會を催すべく準備中

電話譲受け度し

賃借にても宜し

姓名在社

鐵管代を支拂へ
横田父子を相手取り
近く平市から提訴

平市參事會は今二十五日午後一時から開き左記諸件を附議した、損害賠償は例の水道鐵管泥横田父子、佐藤治郎の四名を相手取つて鐵管代九百九十九圓六十錢の請求訴訟を提起するもの

損害賠償訴訟提起 區長並同代理推薦 市會議員章及佩用規程 市吏員章佩用規程 寄附採用 用惡水路新設變換 市道路起定諮問 保健所設置(位置協議)

鐵管泥判決

市役所水道鐵管泥一味は今二十五日平區から左の如く言渡された

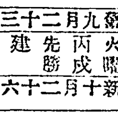
△懲役八月罰金二十圓 横田平藏(六二)

△懲役六月但し三年間執行猶豫 同平助(三五) 十吾(二六)

△贓物故買=懲役三月罰金三十圓 佐藤治郎

チヨン髷飴屋に七年

既報、酌婦と無理心中をはかつたチヨンマゲ飴屋=茨城縣生れ皆川七郎(四〇)=に係る殺人事件公判は二十三日若松支部で開かれ求刑十年に對し懲役七年の判決あつた



舊九月二十三日 火曜 丙戌 先勝 建 室宿 新十月二十六日

鑑判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 紅葉の美もてう落して栗を拾ひ落せし如き日▲二黑 職業の如くならず現狀を固守するが安全▲三碧 上長のとがめ金錢上の間違を生ぜんとす注意▲四綠 人の爲めに卷添へをくひ迷惑することあり▲五黄 前後をかへりみ沈思默考して徐ろに立つがよし▲六白 理想の實現に努むべき日 永遠の基を開らん▲七赤 今日成し得ざる事には手をそめぬがよろし▲八白 人を過するに溫情なくてせざれば後難あり▲九紫 稀有の幸運日新規の計畫或は擴張など適當

二十六日 (小名濱測候所發表)

滿潮 前一〇、〇〇 後七、二〇

干潮 前二、二五 後一、四〇

秋冬中折帽子 賣出

胸をドンと撃つ迫力魅力！色に型に本年の粹を集めた大黑屋の中折帽子

種類七十八種

◎秋の特賣品◎

子供セーター 一、五〇均一
大人毛アンダー 二、〇〇均一
子供毛ジャケツ 五〇均一
子供毛ズロース 五〇均一
福助メリヤス足袋 三〇均一

慰問用品 天津上海にも送れます。荷造り無料

平市 大黑屋 電611

吸入用酸素 純度99%

度量衡 モノサシ マス ハカリ

計器 体溫器 寒暖計

關內藥局 電話四〇番

外科 (內臟外科及一般外科)
X光線科、花柳病
內科、小兒科

岩手醫學士 萬波勳
院長 前田清美

(自炊ノ便アリ)(病室完備)

前田醫院 田町本町電話一二四番